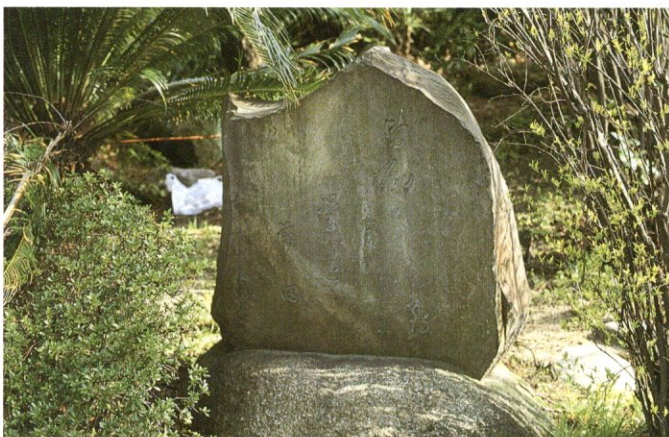


51 木田城址 大田町城山

木田の丘陵の北端に木田城があり、室町時代の後期に荒尾空善小太郎がいました。荒尾氏の出自については、在原業平の末流とする説、高階氏説、平氏説と諸説がありますが、室町時代には、尾張国内の重要な任務についていました。戦国時代になると織田信長に仕えました。今は、個人の住宅となっており何らみるべきものはありませんが、戦国の世にこの地にも武士勢力があって活動していたことがうかがえます。

52 太光寺 大田町上前田

高横須賀町にある長源寺の末寺で、永禄2年(1559)に開かれました。本尊の薬師如来座像(市指定彫刻)は、後世にかなりの修理が加えられていますが、藤原時代の面影を残す優美な顔立ちと衣服の柔らかな線のみしさがよく現されています。ほかのお寺では仏像を安置する厨子の扉が閉ざされており、めったに拝むことができませんが、このお寺はいつでも拝見することができます。



53 横須賀小学校の久野禰鶴の句碑 高横須賀町大塚

久野禰鶴(1848~1932)は、加木屋の人で、家業の質屋経営のかたわら俳句に親しみ、楓園禰鶴の名で明治時代に活躍しました。この人の詠んだ「皆励め爰ぞ学びの苗代田」の俳句の石碑(明治45年・1912年に建てられた)が校門脇の庭にあります。

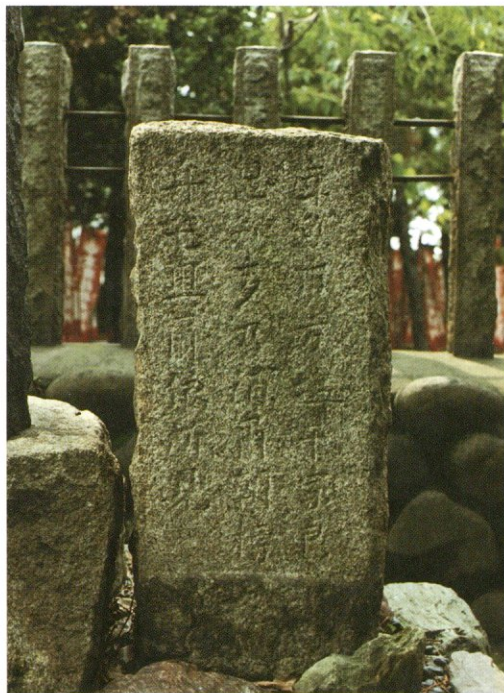


54 今川塚 高横須賀町北屋敷

市内には、桶狭間の合戦(1560)で織田信長に破れた今川義元のお墓と伝えられる供養塔があります。横須賀小学校の東方に「今川さん」と呼ばれる供養塔と、「今川義基墳」と刻まれた碑が建っています。桶狭間の合戦に破れた今川義元の家来がここまで逃げてきて、殿様の遺体を永昌院(塚の南方にあったお寺)へ葬ったといいます。この塚は江戸時代の絵地図にも書き残されています。碑の文字が「義元」ではなくて、「義基」となっているのは、敵に見つかるのを防ぐためであったと伝えられています。

55 天尾神社 大田町清水筋

木田から加木屋へ通り抜ける道筋の木立ちのなか、ひっそりしたたすまいのお社で、慶雲元年(704)にまつられたと伝えられています。神様として菅原道真公もまつられています。



56 諏訪神社・万葉の歌碑 市指定名勝 高横須賀町北屋敷

横須賀小学校の東横にあるお社で、かつては山車があって奉納されていましたが、明治時代に売却、解体されて、今はありません。万葉の歌碑については、裏表紙に説明があります。



57 横須賀御殿の碑 高横須賀町御亭

尾張二代藩主徳川光友公が、寛文6年(1669)に当時は馬走瀬といわれたところ(今の横須賀町)に、別荘を建てました。この横須賀の御殿は、臨江亭といいました。臨江亭は、光友公が亡くなったあとの正徳5年(1715)に取りこわされてしまいました。その70年後の天明5年(1785)に、新しく代官屋敷がおかれました。このことを書いた石碑が、勤労センターの東方に建てられています。